



奈良県感染症情報

令和6年第20週(5月13日～5月19日)

奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)

<https://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	5.44	(4.50)	↗	→	↑	↑↑
2	A群溶連菌咽頭炎	4.82	(2.53)	↑	↑	↑	↓
3	手足口病	4.00	(2.35)	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑
4	新型コロナウイルス感染症	3.35	(2.67)	→	→	↓	↗
5	RSウイルス感染症	2.62	(3.35)	↓	↓	↓	↓

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)

※新型コロナウイルス感染症等、基準値のない疾患については発生状況の評価を行っておりません。

増減: 過去5週間平均数と比べたときの変化 **↑↑急増**、**↑増加**、**↗やや増加**、**→横ばい**、**↓やや減少**、**↓減少**

◆ 県内概況 ◆

感染性胃腸炎の定点当たり報告数は 5.44 で、前週の 4.50 から増加しています。食事の前やトイレの後などには必ず手を洗いましょう。

A群溶連菌咽頭炎の定点当たり報告数は 4.82 で、前週の 2.53 から増加しており、地域別では中和保健所管内西部地域の定点当たり報告数が 13.33 と特に多くなっています。A群溶連菌咽頭炎は、A群溶血性レンサ球菌による上気道の感染症で、学童期の小児に最も多くみられます。人との接触の機会が増えるときに起こりやすく、家庭や学校での集団での感染も多いため、うがいや手洗いなどの感染対策を心がけましょう。

手足口病の定点当たり報告数は 4.00 で、過去5週間平均数と比べて急増しています。感染経路は飛沫感染、接触感染、糞口感染で、子供同士の生活距離が近く、濃厚接触が生じやすい環境である保育施設や幼稚園では集団感染が起こりやすくなります。流水と石けんでしっかりと手を洗い、タオルの共用は避けましょう。

❖ 小児科外来情報 ❖

北部地区(田中小児科医院)

インフルエンザはなかった。COVID-19 は 1 例のみ。学童では溶連菌感染症、幼児では発熱が先行して皮膚症状がその後出現する手足口病が見られる。RSウイルス感染症は続いている。

咳のみが続いていたが受診していなかった学童が発熱のため受診してマイコプラズマ感染症と判明した。遷延する咳と発熱の患児では、各種迅速検査キットが陰性の者が多い。

アトピー性皮膚炎にブドウ球菌性熱傷様皮膚症候群が併発した症例があった。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

インフルエンザは見られなくなった。COVID-19 例もなかった。

感染性腸炎が流行、経過は短期で軽症。呼吸器感染症があるがRS陽性例はなかった。

マイコプラズマを疑う例もなかった。A群溶血性連鎖球菌が続いてみられる。手足口病は減少してきた。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

ウイルス性胃腸炎が増加している。

インフルエンザの流行は終息してきた。COVID-19 の陽性者も減少している。

手足口病が増加傾向にある。

遷延する呼吸器感染症ではヒメタニューモウイルス感染、ライノウイルス感染、特にパラインフルエンザ3型ウイルス感染が散見され、気管支炎や肺炎合併例では入院加療を必要とした。

❖ 注目疾患の動向 ❖ 全て定点当たり報告数

